



西高
だより

鼓動
Sound of Heart

山形県立酒田西高等学校
全日制 (通算第119号)
令和4年2月28日

卒業おめでとう!



「突破する力」

校長 小松 幸樹

3年生のみなさん。ご卒業、おめでとうございます。みなさんの高校生活の3分の2は、新型コロナウイルス感染症の渦中にありました。部活動や学校行事など、やり尽くせなかったという思いもたくさんあったかと思います。今やれることをやろう、と学校祭で取り組んだ地域応援活動で、皆さんは3年生として発想力と行動力を発揮し、全体をリードしてくれました。コロナ禍でもこれだけのことがやれるということを示してくれたと思います。西高生の底力を改めて感じた場面でした。

現在の世界は、新型コロナウイルス感染症が蔓延する中で閉塞感に包まれています。社会の中にさまざまな障壁が立ち上がっているように見えます。共通テスト激励会において、「突破」という言葉を皆さんに送りましたが、これからの時代、この「突破する力」がますます大切になると思います。目の前の障壁を乗り越えるのか、迂回するのか、ど真ん中に穴を開けるのか。あきらめることなく、その方法を考え抜く。西高で学んだことを土台に、これからの新たなステージでも大いに学び、さまざまな体験を積み重ね、その力を磨いてください。未来を拓くのはあなたたちです。

「裕かに 聴く 遅しく」

3年次主任 阿部 瑞枝

未曾有の世界の中に高校時代を過ごすこととなったみなさんの3年間は、できなかったことが多かったかもしれませんが、その分反対に、このような状況にならなかつたら本来ならしようと思わなかったことができた期間でもありました。限られた条件の中で工夫しながら最大限よい方向へと実行しようとするみなさんのエネルギーを実感し、仲間と協働する姿や溢れる笑顔を見られたことは教師冥利に尽きま

す。長い人生、嬉しいことや楽しいこともあります。残念ながら辛いことや逃げたいこともあります。そんな時は、この苦しさを超えたら必ず開けるはず、楽になるはずと信じ、ぐっと踏ん張ってほしいと思います。同じ出来事でも意識や視点を変えれば、失敗したことの中に助かったことが見つかると、絶望の中に光が見えてくるのではないかと思います。自分の考え方を変えていくということです。

卒業生のみなさん、卒業本当におめでとうございます。「裕かに 聴く 遅しく」という素晴らしい校是のもと3年間を過ごしたみなさんは、どこで生活しても大丈夫です。大きく羽ばたき、是非、酒田の、庄内の未来を支える人材となって活躍してください。みなさんのこれからの、酒田西高の校是のように、感性豊かで知性に富んだ主体的な人生となることを心から願っています。



～3年次各クラスの担任からのメッセージ～

視野を広げよう!

1組担任 大類 俊祐

まもなく卒業を迎える君たちに言いたいことは、視野を広げてほしいことだ。視野を広げることは自分の成長につながる。視野が狭いと、いわゆる「使えない人間」になりかねない。私事だが、視野を広げるために大類は大学院に進学した。しかも県外。山形との違いを痛感したし、何度も修士論文にダメだしされては書き直しの繰り返しで投げ出したくなったが、その経験があって今の自分があるとすごく実感した。是非視野を広げる努力をしてほしい。

元気で!

卒業を祝して

2組担任 斎藤 幸子

高校生活を振り返り今、何を思うのでしょうか。進路の悩みや、不安と隣り合わせの受験に苦しみながらも、友情やクラスの絆を大切に、学校行事には全力を注ぎました。男女問わず本当に仲が良く、西高祭ステージ発表で見せた新鮮な混合ペア、自分の受験も控えていても友人に快く手を貸す面接練習、友人の合格を自分のことのように頬を赤らめ歓喜する姿に、皆さんの担任ができてよかった、と心から思いました。進む道は違っても、自分を信じ苦しかった時支えてくれた仲間達を思い出し、突き進んでください。卒業おめでとう。

「人生とは選択の連続である」

～シェイクスピア『ハムレット』より～

3組担任 堀江 友和

私たちは数々の選択をして現在に至っている。それは「どっちのお菓子里しよう?」という小さい選択だったり、「文系?理系?選択科目は?」という受験に直結する大きな選択だったり。社会に出る君たちにとって、これからの人生における選択は自分自身で決めて、自分自身でしっかりと受け止めてほしい。結果が良からうが悪からうが、あくまで結果は結果。素直に受け入れ、決して他人任せにしないこと。それが大人になる第一歩だと私は思う。大人になり、コロナが収束したら飲みにもいこうか。

変わることを懼れず

4組担任 小松 孝蔵

新型コロナウイルス感染拡大により、多くのことがオンラインで行われるようになり、人との関りは減りましたが、人と繋がることの重要性が低くなったわけではありません。むしろ、このような状況でこそ、重要性が増しているのではないのでしょうか。大切なことをしっかり見極め、変える必要があるところは変えながら、柔軟に生きていってほしい。変わることを懼れ、変わらないことをよしとする考えでは、今後益々生きづらくなるでしょう。「成長し続ける」とは、「変わり続ける」ことだと思います。また、どこかで会ったら、どれだけ成長したか楽しい話を聞かせてください。卒業おめでとう。



～3年間を振り返って～



「3年間を振り返って」

3年1組 梨本 泰洋

真新しい制服に身を包みこの学校に入学した約3年前の春、私は新しい仲間との出会いや高校生活に胸を膨らませていました。しかし、ウイルスの影響により大きく活動が制限され、私が思い描いていた高校生活とは大きく異なった3年間となりました。そのような困難を共に乗り越えて来た仲間との絆や、制限がある中で過ごしたこの3年間は、間違いなく私達の心を成長させてくれたと思います。

「充実した高校生活」

3年2組 佐藤 咲穂

私は弓道部の部長を務めました。上手くいかずに思い悩むこともありましたが、仲間の手を借りながら乗り越えることが出来ました。学習面では語学学習に特に力を入れました。毎日言語に触れることを習慣にし、力を伸ばすことが出来たと思います。高校生活はあっという間でしたが、多くの貴重な経験ができた3年間だったと思います。

「日々の歩み」

3年3組 望月 葵音

1年生の頃から進路実現に向け、看護体験などの活動に積極的に参加しました。コロナ禍になってからも看護師になりたいという思いは変わらず、勉強を続け、友人や先生方の助けも借りながら無事志望校に合格することができました。勉強以外にも学校行事や部活動などで日々の楽しい思い出がたくさんできました!3年間ありがとうございました。

「前進」

3年4組 遠藤 梨瑠

期待と不安を抱えながら入学してから、約3年が経ちました。長いようで短かった高校生活がもう終わりに向かっているかと思うと、少し寂しさを感じます。私が高校で頑張ったことを挙げるとしたら部活動でした。はじめてだらけの部活動も仲間と一緒に乗り越えられました。これからも、重ねた努力を一つ一つ大切に、また新たな期待と共に進みます。